

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県 】

宗像市立赤間西小学校

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	6年児童72名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① (教科名) (総合的な学習の時間 「つながるまち 赤間西『ボッチャ』を習ってお年寄りとの交流に役立てよう」)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動や見守り活動でお世話になっている地域の高齢者の方や地域の活動などについて知り、「感謝」や「尊敬」の念を抱き、交流しようとする態度を身につける。 ・高齢者疑似体験や認知症サポート研修などの学習を通して、高齢者の実態について理解する。 ・オリパラクイズで知った、誰でもが、簡単に楽しくできる「ボッチャ」を習い、高齢者との交流に生かすことができる。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で 高齢者疑似体験をしたり、認知症サポート研修を受けたりして、高齢者の実態について学んだ。 ・市のスポーツ健康課を通して、オリパラクイズで知った「ボッチャ」を教えてほしいと依頼すると、県の障がい者スポーツ協会から指導者とボッチャをされる障がいのある方が来校されることになった。 ・体験当日、宗像市のスポーツ指導員の方も参加され、審判役をしながら、一緒に「ボッチャ」のコートやルールを学んだ。 ・「ボッチャ」をされている方からは、障がいの程度によってクラスが分かれることや、健常者も同じルールで競うことができることなどの話を聞いた。 ・「ボッチャ」のボールを的（バスケットボールのサークル）に近づける練習をし、2チームに分かれて競技を行った。はじめから椅子にこしかけ、普段あまり経験しない体勢で行った。 ・運動が得意でない子が一番ターゲットボールに近づくことができ、きたチームでは、みんなから賞賛され、恥ずかしそうに喜んでいる姿も見られた。 ・数日後、校区内の公民館を訪ね、地域の高齢者の方と交流する際、2グループが「ボッチャ」を持参し、楽しく交流することができた。

	
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者疑似体験や認知症サポート研修を受けて、高齢者の実態について学んだことで、自分たちが体験しながら習った「ボッチャ」が、高齢者との交流にも有効かどうかわかり、進んで活用することができた。  <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャの楽しさをいろいろな人に広げたいという意欲が高まり、来年度の児童集会にも取り入れたいという声が聞かれた。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック種目の「ボッチャ」を単に習うだけでなく、地域の高齢者との交流に生かすよう学習過程に位置付けた点 ・レクリエーション用の「ボッチャ」を購入し、校内でも活用できるようにした点
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間を主題研究や市の施策等の観点から、見直しを進めている。学校全体で論議し、「ボッチャ」に親しむ活動、生かす活動のよさを共有し、次年度以降も継続して実施し、カリキュラムにも位置づける方向で検討する。 ・「ボッチャ」の魅力や価値を体験することを通して、パラスポーツやパラリンピックへの興味や関心を高めることへひろげていく。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6年の総合的な学習の時間で実施することと、児童集会での一つのコーナーとして「ボッチャ」を取り入れた種目を検討する。